

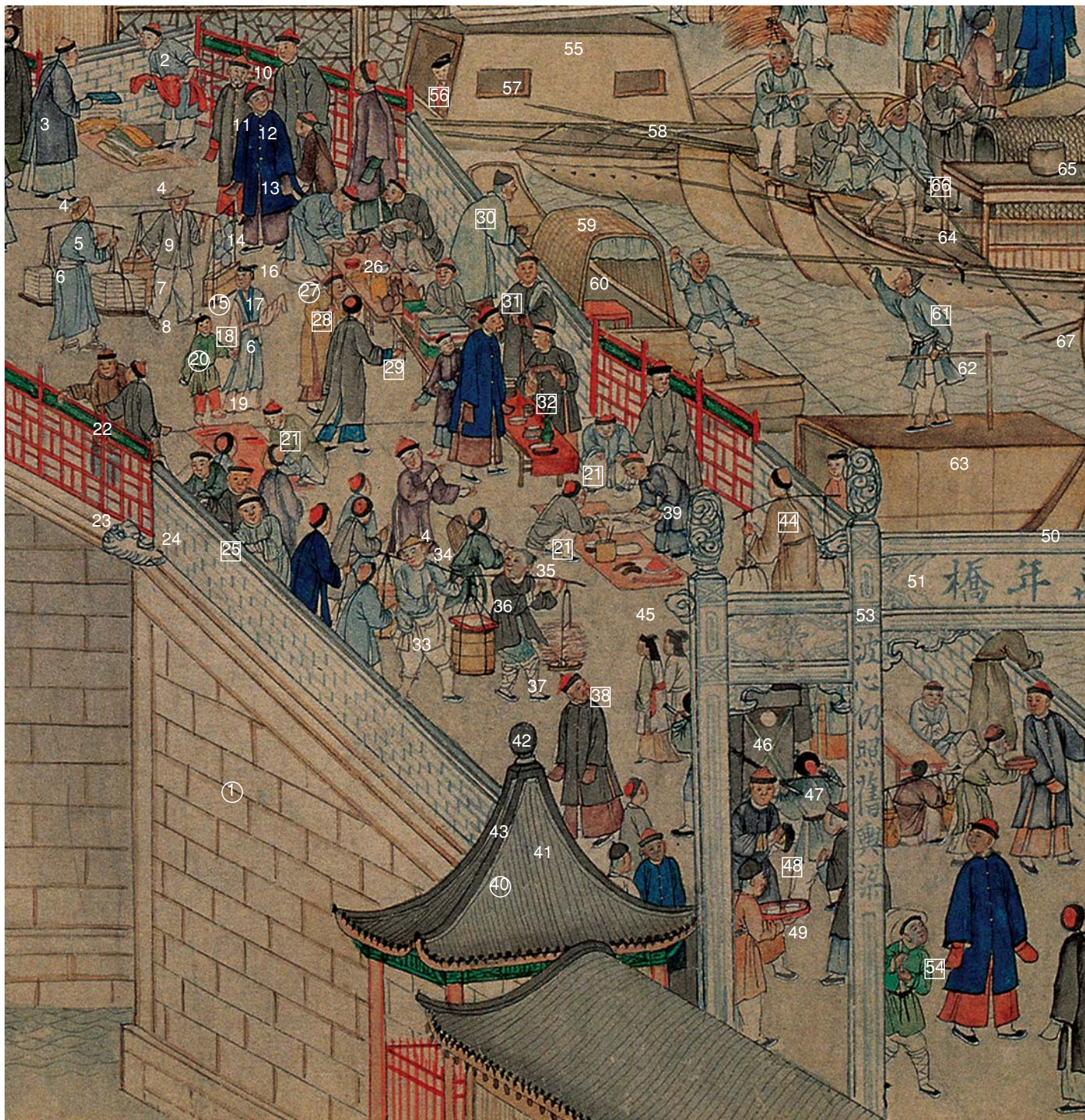


# 賑わう街並み





## 19 橋上の露店



万年橋は胥門の外にかかる橋で、元来ここには粗末な橋しかなかったが、乾隆5年（1740）にここに描かれているような大規模で美しい橋が建造された。清代の蘇州年画にも万年橋のにぎわいを描いたものが多く、当時の大きな話題の一つでもあった。橋の両端にはこの橋を顕彰する牌楼が建てられている。ここには万年橋を讃える「水面忽添新鎖鑰 波

心仍照旧輿梁」（運河上に新しい要地が作られた河の水は元のままこの橋を照らしている）という対句が刻まれている。

橋の上には露店がたくさん出ているが、屋台のようなものは見えない。骨董や日常生活品のようなものが多く、品も不揃いなことから見て、フリーマーケット的な市場のようだ。





- ①「万年橋」
- 2 露天の服屋
- 3 客
- 4 笠
- 5 長着（袍子）
- 6 扱き帯（汗巾）
- 7 ズボン（褲子）
- 8 藁靴（草鞋）
- 9 鏡研ぎ屋
- 10 帽子（暖帽）
- 11 上着（外套）
- 12 釦
- 13 手甲袖（馬蹄袖）
- 14 布靴（布鞋）
- ⑮ 子供連れの女性
- 16 まげ（髻）
- 17 袖なしの長着（半臂）
- ⑮ 手を引く
- 19 スカート（裙子）
- 20 子供
- ⑮ しゃがむ
- 22 木の欄干
- 23 橋の守護獣（吸水獸頭）
- 24 石の欄干
- ⑮ 眺める
- 26 露天の焼きもの屋
- ⑮ 老人
- ⑮ 杖をつく
- ⑮ 指差す
- ⑮ 船の人に声をかける
- ⑮ 風呂敷を肩に掛ける
- ⑮ 商品を勧める
- 33 絡げた裾
- 34 ざる（箕）
- 35 巻き上げた辮髪
- 36 上着（短衣）
- 37 脚絆（綁腿）
- ⑮ 振り向く
- 39 露天の道具屋
- ⑮ 四阿（亭）
- 41 方形造（四角攢尖頂）
- 42 宝珠（宝頂）
- 43 降り棟
- 44 天秤棒で運ぶ
- 45 角頭巾
- 46 輿（轎子）
- 47 輿かき（轎夫）
- ⑮ 拱手の礼をする
- 49 盆（托盤）
- 50 牌楼
- 51 額「万年橋」
- 52 対聯「水面忽添新鎖鑰」
- 53 対聯「波心仍照旧輿梁」
- ⑮ 背負う
- 55 屋形（船艙）
- ⑮ 外をうかがう
- 57 窓
- 58 棹
- 59 苫（船篷）
- 60 ちゃぶ台（几）
- ⑮ 舵を取る
- 62 舵柄
- 63 橋をくぐる船
- 64 船縁に掛けた棹
- 65 素焼きの甕
- ⑮ 棹を差す
- 67 琵琶簞
- ⑮ 簞を漕ぐ
- 69 簞縄（簞索）

画面左上に二人の天秤棒をかついだ男が見え、うち右手の男は荷に丸いものをぶら下げている。これは鏡の研ぎを専門に行う業者である。

橋の上から行き交う船を見下ろしている者も多々いる。万年橋をこれからくぐる船の舵を取っている男は橋の上の男と会話を交わしている。（佐々木）



## 20 万年橋のたもと



万年橋の城壁側のたもとには花卉で飾られた花売りが見え、ひときわ目を引く。にっこりと微笑んでいるのも非常に印象的だ。その右には、黄色い長衣を着た老人が立っているが、この黄色い長衣、杖、白い髭は「姑蘇繁華図」における老人の描き方の典型である。万年橋は観光地としての役割も果たしており、子供連れの姿が何組か見られる。赤い木の欄





- |                               |                           |                |
|-------------------------------|---------------------------|----------------|
| 1 瓦座（封檐板）                     | 14 尻繫 <small>しりがい</small> | 27 箱           |
| 2 垂木（椽）                       | 15 子供を負ぶう                 | 28 杖           |
| 3 長押（椽枋）                      | 16 笠                      | 29 微笑む         |
| 4 看板「嘩吱羽毛」                    | 17 看板「宮絢繭綢」               | 30 花売り         |
| 5 金銀を量る天秤                     | 18 看板「粧蟒大緞」               | 31 石の欄干        |
| 6 羽目板（檻牆）                     | 19 看板「漢府八糸」               | 32 橋の守護獣（吸水獸頭） |
| ⑦ 牌楼                          | 20 二階から見下ろす               | 33 見下ろす        |
| ⑧ 驢馬                          | 21 額「万年橋」                 | 34 木の欄干        |
| 9 轡                           | 22 担ぐ                     | 35 帽子（暖帽）      |
| 10 手綱（繮繩）                     | 23 長持                     | 36 辮髪          |
| 11 胸繫 <small>むながい</small> （鞅） | 24 天秤棒（扁担）                | 37 凭れ掛かる       |
| 12 鐙                          | 25 下げ緒                    |                |
| 13 鞍                          | 26 錠（鎖）                   |                |

干のところにいる親子は運河を見下ろしている。行き交う船でも眺めているのであろう。牌楼の下には子供を負ぶった男の姿がある。牌楼の向こう側にある商店街の二階の人々も一様に下を眺めているようである。こちらは橋を行き交う人々を眺めているのか。商店街には驢馬に乗った男を先頭に、天秤棒で金庫のようなものをかついだ男、大きな長持を担い

だ男たちが続く。彼らは一行をなしているようである。この場面でとりわけ目を引くのは背後の絹問屋街である。絹は蘇州の特産物で、「漢府八糸」の看板を掲げている。「漢府」とは南京にある江寧織造局を指し、その製品である「漢府八糸」は宮廷に献上する貢ぎ物であったから、この絹問屋はさしずめ宮廷御用達といったところであろうか。（佐々木）



## 21 質屋と米問屋



- |             |                  |                    |               |
|-------------|------------------|--------------------|---------------|
| ① 質屋 (當舖)   | 15 桴 (槌)         | 29 穀物容器 (草簀)       | 43 杵の取っ手      |
| 2 卯建 (風火牆)  | 16 木魚            | 30 金銀を量る天秤         | 44 絡げた裾       |
| 3 窓         | 17 腰 (勤脚)        | 31 カウンター (柜台)      | 45 土瓶 (水壺)    |
| 4 対聯        | 18 敷居 (下檻)       | 32 瓦屋根             | 46 素焼きの鉢 (陶盆) |
| 5 木の欄干      | 19 地覆石 (階沿)      | 33 帽子 (暖帽)         | 47 立ち食いをする    |
| 6 柵         | 20 風呂敷包みを肩に掛ける   | 34 上着 (外套)         | 48 箸          |
| 7 格子窓       | 21 質屋の看板 (当幌)「当」 | 35 手甲袖 (馬蹄袖) で手を隠す | 49 井          |
| 8 軒 (下檐)    | 22 子供            | 36 長着 (袍子)         | 50 中庭 (院子)    |
| 9 桁         | 23 指差す           | 37 切石積み (条石岸)      | 51 切妻 (山牆)    |
| 10 長押 (塾枋)  | 24 風呂敷を抱える       | 38 大棟 (屋脊)         | 52 裏口 (小門)    |
| 11 小壁 (門頭板) | 25 拱手の礼をする       | 39 袖を巻く            | 53 米を背負って運ぶ   |
| 12 鴨居       | 26 布靴 (布鞋)       | 40 米袋              | 54 たくし上げたズボン  |
| 13 雨戸       | 27 挨拶を交わす        | 41 ざる (簞)          | 55 歩み板        |
| 14 僧侶       | 28 看板「米行」        | 42 杵 (斛)           | 56 米を袋からあける   |





- 57 裏口
- 58 裏口からうかがう女性
- 59 笠
- 60 ズボン（褲子）
- 61 苫（船篷）
- 62 桶
- 63 盥
- 64 棹
- 65 琵琶簾
- 66 簾繩（簾索）

質屋と米問屋を描く場面である。質屋の建物を二棟描いている。ここに見られるように、質屋は常に巨額な資財を保管しているので、火災と盗難を防ぐために、かなり独特な構えをしている。建物の両側に卯建が建てられるほか、周りの建物と距離をとっているように見える。また、右下の米問屋と比べると分るように、営業中でありながら、雨戸を部分的にしか取り外しておらず、カウンターも入り口の近くに設置されていない。江南の店舗は、営業時間に雨戸を全部取り外すのが普通である。例外なのは、質屋のほかに、貴金属と生薬の店だけである。

また、「当幌」という独特の大きい看板を高く掲げるのも、質屋のひとつの特徴である。

ここに見られる米問屋は、江南に多く見られる建築様式で、いわゆる「前店後宅」である。店は河に面しており、私有の河岸を持ち、店から商品を直接船に載せられるようにしている。その後に、住宅が設けられており、店の主人とその家族が住む。

また、画面から米を運搬する人夫や水夫などの労働者と店の主人の衣装が違っていることもはっきり分る。

店から運び出した米は、袋のまま船に積むのではなく、袋からあけ、船倉に入れて運搬することに注目したい。このような米の輸送法は、かつての中国ではかなり一般的だったようである。これに使う船は、「米包子船」という。（彭）



## 22 官僚の外出

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 鳥籠            | 40 折畳み椅子（折椅）   |
| 2 卯建（風火牆）       | 41 芭蕉扇         |
| ③ 二階建て店舗        | 42 盆（托盤）       |
| 4 大棟（屋脊）        | ④③ 官僚          |
| 5 瓦屋根           | 44 官位を示す飾り（補子） |
| 6 軒瓦（滴水）        | ④⑤ 乗馬          |
| 7 瓦座（封檐板）       | 46 鞍橋          |
| 8 垂木（椽）         | 47 鞭           |
| 9 小壁            | 48 下鞍          |
| 10 鴨居           | 49 鐙           |
| 11 対聯           | 50 轡           |
| 12 膳板（榻板）       | 51 手綱（繮縄）      |
| 13 羽目板（檻牆）      | 52 尻繫          |
| 14 金銀を量る天秤      | ⑤③ 老人          |
| ①⑤ 量る           | 54 杖           |
| ①⑥ 相談する         | 55 灯籠          |
| 17 庇（檐篷）        | 56 下級役人（皂隸）    |
| 18 看板「雲貴川広各省雜貨」 | 57 赤い帽子（紅帽）    |
| 19 吹流し（幌子）      | 58 黒い帽子（黒帽）    |
| 20 日除け（幔）       | 59 帯（腰帶）       |
| 21 看板「命館」       | 60 辮髪          |
| ②② 担げる          | 61 華蓋          |
| 23 通し柱          | 62 看板「棉花行」     |
| 24 カウンター（柜台）    | 63 看板「大通号」     |
| 25 敷居（門檻）       | 64 看板「松江大布」    |
| 26 地覆石（階沿）      | 65 看板「太倉棉花」    |
| 27 看板「雜貨行」      | 66 看板「子淨棉花」    |
| 28 看板「復興老行」     | 67 吊し看板        |
| 29 支え棒（架木）      | 68 看板「布行」      |
| 30 雜貨屋看板「復興号」   | 69 脚絆（綁腿）      |
| 31 氈帽           | 70 刑具（笞杖）      |
| ③② 風呂敷を肩に掛ける    | ⑦① 風呂屋（浴堂）     |
| ③③ 抱える          | 72 浴場          |
| 34 靴下（襪子）       | 73 店名「香水浴堂」    |
| 35 布靴（布鞋）       | 74 帽子（暖帽）      |
| 36 看板「灯籠店」      | 75 上着（外套）      |
| ③⑦ 指差す          | 76 釦           |
| 38 看板「紗灯」       | 77 手甲袖（馬蹄袖）    |
| 39 弁当箱（食盒）      | 78 長着（袍子）      |



商店街を高官の一行が進む。高官の出遊には多くの従者たちが仰々しくつき従った。従者たちは華蓋、芭蕉扇のほか、鞭や刑具として使用された竹の棒などを持ち、その威厳を演出した。通りの人々が道を譲っている様がよく分かる。ほかに馬に乗り降りする際の踏み台に使ったと思われる折り畳み式椅子なども見える。馬に乗った二人は主人と客人であろうか。行楽に使う用具がないことから見て、主人が客





人を迎えて家に向かう途中であろうか。商店街で面白いのは画面右手に見える「香水浴室」である。門の裏手に見えるドーム状のものが浴室である。船旅を続けてきた商人たちはここで一息入れ、心と体を癒したことと思われる。その左には布や綿花など蘇州を代表する特産物の問屋が連なっている。画面左手の「復興号」という名の雑貨屋の店先には五色の吹き流しがはためいている。これも看板と同じく商

売の標識である「幌子」(招き)の一種である。この建物は右隣の建物との間を高い卯建によって仕切られている。これもこの地方独特の様式である。その左手の「命館」は占いを行う店舗だ。占い師には大道易者ばかりでなく店舗を構えているものもいたのである。(佐々木)



## 23 城内の街並み







- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 卯建（風火牆）   | 22 担げる      |
| ② 二階建て店舗    | 23 帽子（暖帽）   |
| ③ 凭れ掛かる     | 24 上着（外套）   |
| 4 羽目板（檻牆）   | 25 長着（袍子）   |
| 5 対聯        | 26 布製の長靴    |
| 6 カウンター（柜台） | 27 布靴（布鞋）   |
| ⑦ 頭上運搬      | 28 天秤棒（扁担）  |
| 8 看板「進京貢緞」  | 29 下げ緒      |
| 9 看板「紗緞」    | 30 上着（短衣）   |
| ⑩ 背負う       | 31 帯（腰帶）    |
| ⑪ 乗馬        | 32 スボン（褲子）  |
| 12 大棟（屋脊）   | 33 吊し看板     |
| 13 瓦屋根      | 34 看板「皮貨發客」 |
| 14 瓦座（封檐板）  | ③⑤ 指差す      |
| 15 垂木（椽）    | ③⑥ 挨拶を交わす   |
| 16 長押（額枋）   | 37 看板「帽行」   |
| 17 看板「皮貨行」  | 38 看板「朝冠」   |
| 18 通し柱      | 39 看板「満帽」   |
| 19 地覆石（階沿）  | 40 看板「帽鋪」   |
| 20 輿（轎子）    | ④① 天秤棒で担ぐ   |
| 21 輿かき（轎夫）  |             |

蘇州城西北の閶門から入った城内にある閶門大街の街並みを描く場面である。大きい通りであり、多くの人が往来し、その両側に商店が軒を連ねている。多くの店名に「行」が見られ、「牙行」、すなわち問屋であることを物語っている。蘇州の最も重要な商業地区の一つである閶門一帯には、こうした様々な卸業者が集まっていた。

全ての店舗が二階建てで、一階は店で、二階は事務室である。土地が希少で地価が高く、そして問屋として事務室が必要であるためであろう。営業中のため、一階の板戸をすべて外しており、入り口のすぐ近くに設置しているカウンターがはっきり見える。そして、店舗が密集していることもあって、火事が発生した際に、延焼を防ぐ卯建が多く設けられている。（彭）



## 24 川端の問屋街



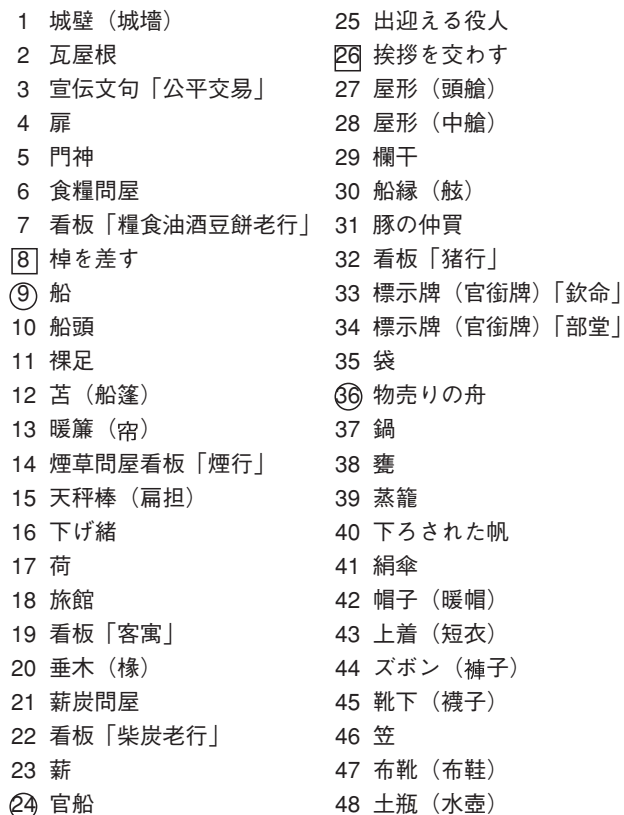
ここには各種の卸売業の店舗、画面向かって右側から、家畜としての豚（「猪行」）、薪や炭などの燃料（「柴炭炭行」）、煙草（「煙行」）、穀物や酒油（「糧食油酒豆餅老行」）の卸が店を並べている。特に燃料の卸売りの店の前には小高く薪が積まれていて、これから出荷するのではないと思われる。また、「客寓」という看板が見え、商取引のために訪れた商人たちのためと思われる旅館も設けられていたことが分かる。

食料品の卸の店は二棟がつながっていて、江南の建築らしくその間に細い廊下があり、入口の門扉と門扉に描かれた門神が見える。左側の棟の壁には

「公平交易」という宣伝文句が大書されている。

こうした卸のための船着き場にも役人がやってくるらしい。画面下の方の大きな舟には赤地に白文字で「欽命」「部堂」のプラカードが見えていて、この舟に役人が乗っていることが分かる。船首の三人の人物のうち左側の二人が出迎え、右側の手を広げた人物が到着した役人の一行のうちの一人と思われる。但し、この人物の右側に更に二人の人物がいて、しかもそのうち一人は右側を見ており、船室に高官がいるのではと思わせる。船尾に高官のための傘を掲げている召使いが立っていることから、偉い人はまだお出ましになっていないらしい。





更によく分からないのは中央の人々である。「猪行」と「柴炭労行」の間の建物から出てきた五人の人間が、帆の影に隠れて後頭部しか見えない人を見送り、もしくは出迎えている。一人が風呂敷包みを持ち、その後ろの一人が何か棒状のものを大事そうに持っている。見送りか、出迎えか、役人か、商人か、全く不明である。(鈴木)



## 25 物資行き交う川辺の商店街



万年橋の北側は城壁に沿って半蔵街という名の商店街が賑わいを見せている。多くの店舗、露天商、その間を縫うように輿や荷かつぎ人夫、買い物客が通って行く。店舗は一続きになっており、テナント制と推定される。城壁に沿った店は二階建てになっており、一階が店舗、二階が商談に使用されていたのだろう。「登楼看貨」（二階に上がって商品を見てください）という看板もあり、貴重な商品は二階に保存していたのかも知れない。よく見るとカードゲ

ームをしている者たちもいる。これも商談の一環であろうか。一階にある「金銀首飾」の店では商品を赤い手揚げ金庫に入れている。客人が来た時だけ開いて中の商品を見せるのであろう。左手の布店の軒先、「不二価」（掛け値なし）の看板の上には22「官僚の外出」にも見える五色の吹き流しがはためいている。

画面の中央、建物の壁には船舶の停泊の禁止や火の用心を促す二枚のお触れが貼られている。





- |              |                        |
|--------------|------------------------|
| 1 城壁（城牆）     | 41 看板「兌換金珠」            |
| 2 中庭（天井）     | 42 脚絆（綁腿）              |
| 3 大棟（屋脊）     | 43 竿秤で量る               |
| ④ 服飾店        | 44 竿秤                  |
| 5 瓦屋根        | 45 水際階段（水埠）            |
| 6 瓦座（封檐板）    | 46 魚を持つ女性              |
| 7 垂木（椽）      | 47 まげ（髻）               |
| 8 長押（額枋）     | 48 扱き帯（汗巾）             |
| 9 商品の服       | 49 魚                   |
| 10 服を広げて見せる  | 50 窓（檻窓）               |
| 11 輿（轎子）     | 51 看板「金銀首飾」            |
| 12 長柄（轎桿）    | 52 貴金属を入れる厨子           |
| 13 輿かき（轎夫）   | 53 小帽                  |
| 14 日傘（陽傘）    | 54 担げる                 |
| 15 長持        | 55 苫（船篷）               |
| 16 辮髪        | 56 屋形（貨艙）              |
| 17 竹箆        | 57 荷                   |
| 18 子供        | 58 看板「紙張発客」            |
| 19 切妻（山牆）    | 59 お触れ「蘇州府示 催趙重運・不得停泊」 |
| 20 丸窓        | 60 お触れ「蘇州府示 禁止夜行・小心火燭」 |
| 21 吹流し（幌子）   | 61 看板「雜貨老行」            |
| 22 看板「不二価」   | 62 看板「登楼看貨」            |
| 23 帽子（暖帽）    | 63 看板「川広薬材」            |
| 24 上着（外套）    | 64 看板「浦城煙行」            |
| 25 手甲袖（馬蹄袖）  | 65 歩み板                 |
| 26 長着（袍子）    | 66 帆柱を下ろす              |
| 27 布靴（布鞋）    | 67 官船                  |
| 28 風呂敷（包袱）   | 68 明かり窓                |
| 29 笠         | 69 繫船柱（將軍柱）            |
| 30 花売り       | 70 屋形（頭艙）              |
| 31 切石積み（条石岸） | 71 屋形（中艙）              |
| 32 二階建て店舗    | 72 棹を差す                |
| 33 障子（榻扇）    | 73 たくし上げたズボン           |
| 34 通し柱       | 74 屋形の両側にある通路（廡堂）      |
| 35 羽目板（檻牆）   | 75 副舵（披水板）             |
| 36 吊し看板      | 76 折り畳んだ網代帆            |
| 37 小壁（門頭板）   | 77 罌網                  |
| 38 鴨居        | 78 看板「兌換錢莊」            |
| 39 看板「内店人參」  | 79 錢差し（錢串）             |
| 40 カウンター（柜台） | 80 招福札「福」              |
|              | 81 春聯「春王正月」            |
|              | 82 春聯「天子万年」            |
|              | 83 看板「純銅鉄器」            |
|              | 84 簾                   |

運河ではいま到着した船が接岸しようとしており、船上の男たちが棹を突っ張っている。船倉の屋根に乗った四人の男たちは力を合わせて帆を下ろしている最中である。水際階段の上では竿ばかりを持った男が、船上の女から獲れたての魚を買い上げているようだ。あるいは女性の方が購入者かもしれない。（佐々木）



## 26 老舗が並ぶ商店街



- |                 |             |               |               |
|-----------------|-------------|---------------|---------------|
| 1 瓦屋根           | 20 風呂敷（包袱）  | 39 看板「松蘿茶室」   | 58 女性の長着      |
| 2 軒瓦（滴水）        | 21 上着（短衣）   | 40 荷を背負う      | 59 スカート（裙子）   |
| 3 瓦座（封檐板）       | 22 釦        | 41 簾          | 60 まげ（髻）      |
| 4 垂木（椽）         | 23 ズボン（褲子）  | 42 笙          | 61 上衣（短衫）     |
| 5 長押（額枋）        | 24 布靴（布鞋）   | 43 楽器店看板「鳳鳴斎」 | 62 袖なしの上着（半臂） |
| 6 看板「松江標布」      | 25 敷居（門檻）   | 44 三味線（三弦）    | 63 看板「大雅堂書坊」  |
| 7 羽目板（檻牆）       | 26 看板「雜貨老行」 | 45 扱き帯（汗巾）    | 64 看板「古今書籍」   |
| 8 通し柱           | 27 箸        | 46 看板「琵琶絃子」   | 65 荷を担ごうとする   |
| 9 対聯「居之安」       | 28 帽子（暖帽）   | 47 蔀戸（支摘窓）    | 66 天秤棒（扁担）    |
| 10 対聯「平為福」      | 29 鍋蓋       | 48 看板「秘製小菜」   | 67 下げ緒        |
| 11 扉            | 30 鍋        | 49 輿（轎子）      | 68 甕          |
| 12 看板「六壬神数」     | 31 こんろ（炉）   | 50 看板「川貝陳皮」   | 69 水桶         |
| 13 看板「命相通神」     | 32 看板「精潔餛飩」 | 51 長柄（轎桿）     | 70 看板「湖縐綿綢」   |
| 14 占い師          | 33 包丁（菜刀）   | 52 輿かき（轎夫）    | 71 看板「綿紬老行」   |
| 15 占い店          | 34 薪        | 53 帯（腰帶）      | 72 乗馬         |
| 16 看板「搜精ト易」     | 35 薪を割る     | 54 脚絆（綁腿）     | 73 笠          |
| 17 格子窓（檻窓）      | 36 楔        | 55 看板「書坊」     | 74 柴          |
| 18 小帽           | 37 諸肌脱ぎ     | 56 硯          |               |
| 19 看板「雲貴川広雜貨老行」 | 38 料理屋の客    | 57 日傘（陽傘）     |               |





この一段に見える商店街には蘇州の老舗が多く描かれている。大雅堂書坊には帙に入った書籍がびっしりと積まれている。「鳳鳴齋」は楽器の専門店である。蘇州は楽器の名産地でもあった。『紅樓夢』には登場人物がわざわざ蘇州まで楽器を買いに行く場面がある。店先にいる番頭は笙を吹いている。音色を試しているのであろうか。その左手の茶室は小料理の提供もしており、店先では薪を割ったり、肉を切ったりと店員たちがきびきびと働いている。店

先には背負子を背負った商人がいて、このお店に入ろうとしているようだ。階段を上った二階では客たちが楽しそうに茶を飲み、料理に箸を動かしている。「精潔餛飩」と看板に出すあたり、この店の自慢の一品はワンタンだったらいい。画面左手の戸が半開きになった店舗は占い師の店で、「命相通神」（すごく当たる）などの看板も空しく、占い師本人は自分のことを占えないらしく、客は来ないようである。（佐々木）



## 27 買物客で混雑する橋の上



- |                      |                 |              |            |
|----------------------|-----------------|--------------|------------|
| 1 日傘（陽傘）             | 16 天秤棒で荷を担ぐ     | 31 道士の弟子（道童） | 46 帽子（暖帽）  |
| 2 アーチ型の屋根（棚頂）        | 17 引出のある箱       | 32 担げる       | 47 凭れ掛かる   |
| 3 燈籠（懸燈）             | 18 指差す          | 33 小帽        | 48 丸窓      |
| 4 燈籠の柱（懸柱）           | 19 四角い盆（托盤）     | 34 脚絆（綁腿）    | 49 洗濯物     |
| 5 看板「胭脂宮粉」           | 20 立ち話する官僚たち    | 35 笠         | 50 手すりに掴まる |
| 6 羽目板（檻牆）            | 21 髭            | 36 荷を抱える     | 51 芭蕉扇     |
| 7 日除け（幔）             | 22 見物する         | 37 赤い風呂敷     | 52 橋       |
| 8 棚（貨架）              | 23 手甲袖（馬蹄袖）     | 38 振り向く      | 53 木の欄干    |
| 9 看板「細貨」             | 24 輿（轎子）        | 39 幟（幌子）     | 54 桁石      |
| 10 飾り（彩穂）            | 25 輿かき（轎夫）      | 40 竹竿を運ぶ（扛）  | 55 梁石      |
| 11 両手を交差させて袖に入れる（籠手） | 26 話し合う女性たち     | 41 城壁（城牆）    | 56 橋杭（橋柱）  |
| 12 水桶                | 27 プリーツスカート（褶裙） | 42 板張り（木板牆）  | 57 側壁（山花牆） |
| 13 天秤棒で水を運ぶ（挑）       | 28 道士           | 43 裏口        |            |
| 14 油売り（売油郎）          | 29 直綴（道袍）       | 44 格子窓       |            |
| 15 裾紐で止める            | 30 頭巾（道冠）       | 45 提燈        |            |





大きな橋の上の賑やかな場面である。奥の方から、竹棹を2本ずつ担ぐ2人組、重そうな白い荷物を左肩にする男、赤い風呂敷を抱える笠の男、道士とその弟子、おしゃべりする女性たちと輿の行列、立ち話している官僚たちの集まり、その間を縫うように様々な荷物を運ぶ人など、多くの人が行き来している。

服装や動作、表情からそれぞれの身分や目的を推定することも楽しいが、ここでは橋の上の施設に注目したい。道を挟んで両側に商店街が見える。店舗

の裏側が板張りである。窓が設けられ、裏口から欄干まで出て水面を見下ろしながら一息することもできるようだ。店舗の正面に腰の高さの羽目板があり、店舗の奥行きがそれによって決められている。羽目板とアーチ型屋根の材質や作り方を見れば、これは一定の計画に基づいて建てられた商店街だと思われる。橋の上に4本の柱が高く立てられ、大きな提灯がぶら下がっている。画面の右、店舗の裏側の突上げ窓の端にも提灯が見られる。ここでは夜でも商売ができたようである。

橋上の商店街は、蘇州でもあまり見られない風景であるようだ。露店などによって大きな橋の上の一部が占められ、交通の障害になる風景は、北宋「清明上河図」の虹桥や、「姑蘇繁華図」の胥門万年橋の場面でも確認できる。それに対してここでは、勝手な露店開設はなく、各店舗も日除け以外、規制された範囲より商売施設がはみ出ることも見られない。強く規制されていたからではないかと思われる。

この橋は蘇州城西北の閶門外にあった。蘇州西郊の楓橋で大運河が北から東へ曲がってここに至り、この橋の下を通して城壁に沿って南に流れ、胥江を通して西南へ太湖に達する。橋の南北に埠頭があり、岸边に各種商業店舗、問屋、倉庫、金融機関、運搬会社が構え、水面では大小の船が行き来している。閶門は古くから江南屈指の商品集散地であり、蘇州一の商業繁華街である。橋での統一規格の商店街は、こうした商業中心地における土地の希少価値がもたらした管理法であろう。(王)



## 28 托鉢に向かう僧侶の行列



木洸鎮の寺院から僧たちが托鉢に向かう場面で、朱塗りの山門にたたずむ僧が彼らを見送っている。商店街の酒屋でさっそく托鉢を開始する者がある。僧たちは若い者から年老いた者までおり、おおむね地味な色の僧服を身につけているが、門前に赤い袈裟をまとった者もあり、高位の僧かと思われる。

山門の右側の店舗は官塩を扱っている。塩は政府の専売特許であった。なおこの店舗内の荷は後から描き足されたと見え、枠線だけで背景が透けて見えている。「姑蘇繁華図」にはしばしばこういう描写

が見られる。

商店街の先には占い師がいる。壁に掛けているのは鬼谷子の肖像である。鬼谷子は戦国時代に活躍したとされる伝説上の人物で、算命学を確立したため占い師の始祖とされる。肖像画の鬼谷子は頭から二本の角が生えており、異形の人物として描かれている。「姑蘇繁華図」では寺廟や試験場などに占い師が多く描かれる。悩みを持った人が集まるところに占い師も出没したようだ。(佐々木)

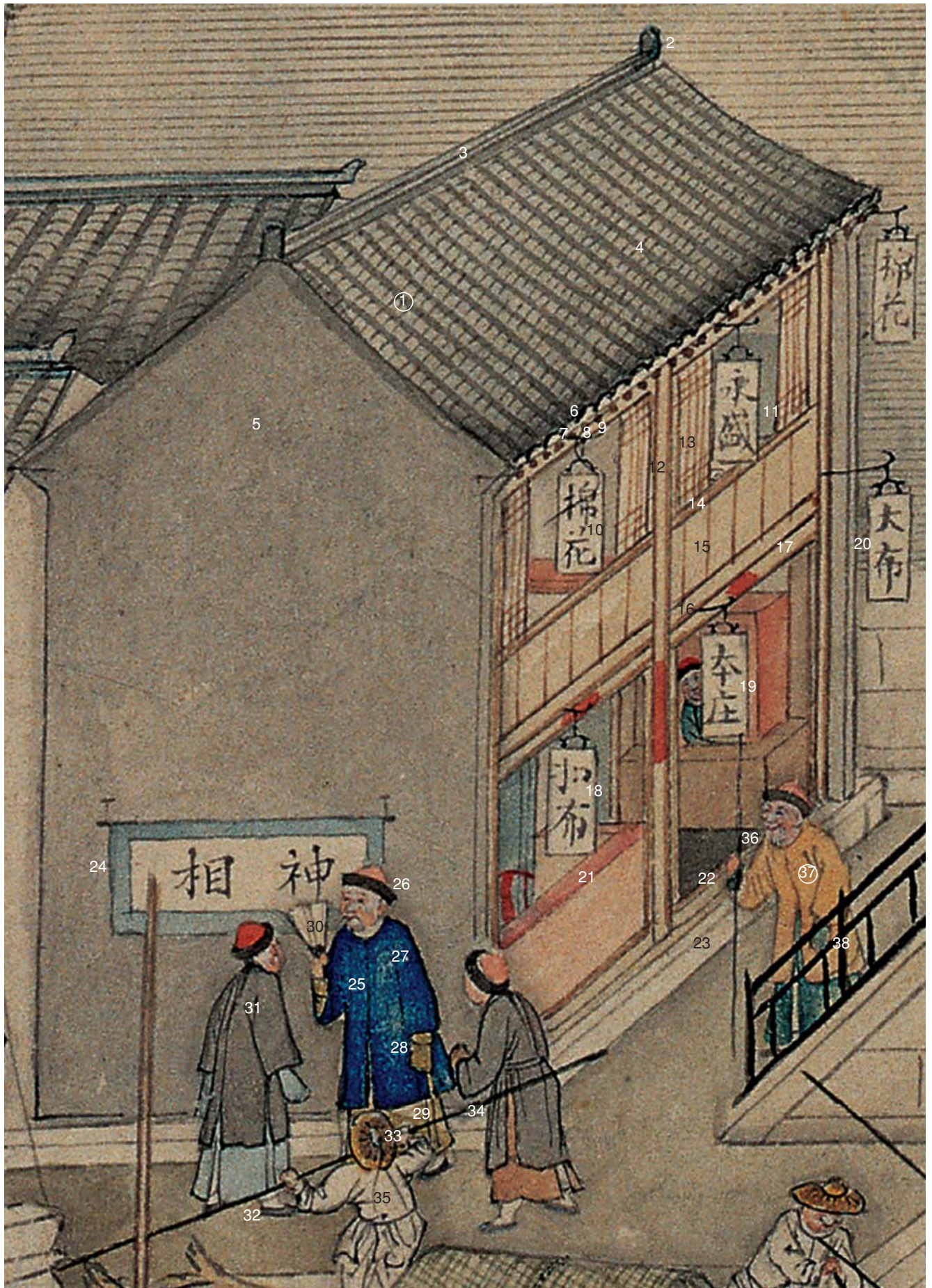




- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1 傍吻（脊獸）      | 27 小壁（門頭板）  |
| 2 山門          | 28 鴨居       |
| ③ 僧侶          | 29 看板「官塩」   |
| 4 僧衣          | 30 金銀を量る天秤  |
| ⑤ 天秤棒で運ぶ      | 31 杖        |
| 6 天秤棒（扁担）     | 32 笠        |
| 7 下げ緒         | ③③ 舵を取る     |
| 8 籠（籬）        | 34 舵        |
| 9 上着（短衣）      | 35 素焼きの甕    |
| 10 帯（腰帶）      | 36 看板「桐油」   |
| 11 たくし上げたズボン  | 37 看板「釘鉄」   |
| 12 袈裟         | ③⑧ 托鉢する（化縁） |
| 13 石段（踏段）     | 39 看板「名酒」   |
| 14 耳石（垂帶石）    | 40 鉢盂       |
| 15 石の欄干       | 41 大棟（正脊）   |
| 16 切り石積み（条石岸） | 42 看板「銭庄」   |
| ⑦ 手を隠して歩く     | 43 破風       |
| ⑧ 二階建て店舗      | 44 切妻（山牆）   |
| 19 瓦屋根        | 45 鬼谷子の掛け軸  |
| 20 瓦座（封檐板）    | 46 占い師      |
| 21 垂木（椽）      | 47 帽子（暖帽）   |
| 22 通し柱        | 48 上着（外套）   |
| 23 窓（檻窓）      | 49 手甲袖（馬蹄袖） |
| 24 膳板（榻板）     | 50 長着（袍子）   |
| 25 羽目板（檻牆）    | 51 小帽       |
| 26 長押（塾枋）     |             |



## 29 人相見に聞き入る





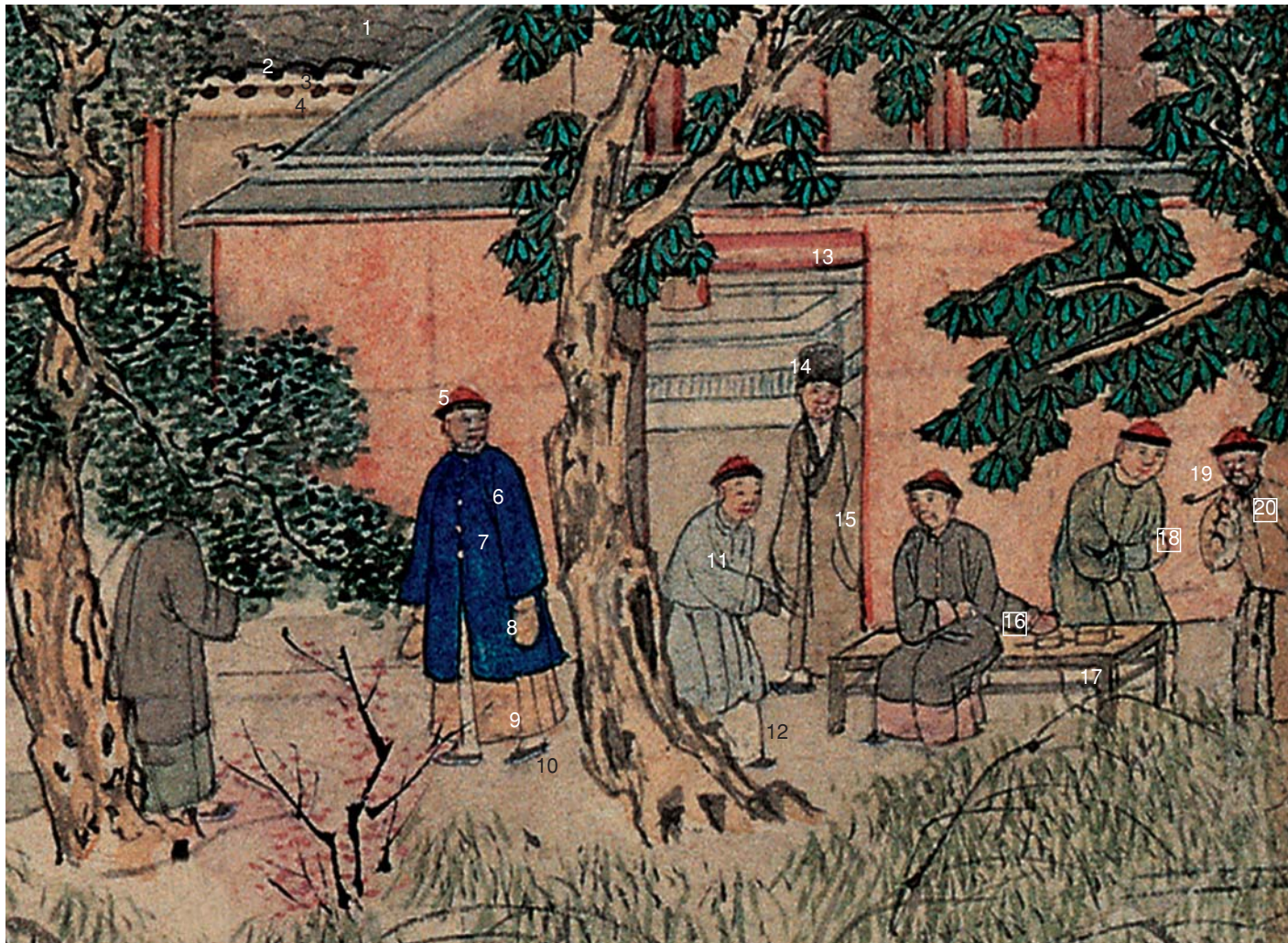
- |            |              |
|------------|--------------|
| ① 二階建て店舗   | 20 看板「大布」    |
| 2 鴟尾（正吻）   | 21 カウンター（柜台） |
| 3 大棟（屋脊）   | 22 敷居（下檻）    |
| 4 瓦屋根      | 23 地覆石（階沿）   |
| 5 切妻（山牆）   | 24 看板「神相」    |
| 6 軒瓦（滴水）   | 25 占い師       |
| 7 瓦座（封檐板）  | 26 帽子（暖帽）    |
| 8 垂木（椽）    | 27 上着（外套）    |
| 9 長押（椽枋）   | 28 手甲袖（馬蹄袖）  |
| 10 看板「棉花」  | 29 長着（袍子）    |
| 11 看板「永盛」  | 30 扇子（折扇）    |
| 12 通し柱     | 31 客         |
| 13 格子窓（檻窓） | 32 布靴（布鞋）    |
| 14 膳板（榻板）  | 33 笠         |
| 15 羽目板（檻牆） | 34 棹         |
| 16 長押（額枋）  | 35 船頭        |
| 17 鴨居      | 36 杖         |
| 18 看板「扣布」  | ③⑦ 老人        |
| 19 看板「本莊」  | 38 欄干        |

閭門の北側、渡僧橋のたもとの情景である。「神相」の掛け軸を壁に掛けているのは占い師である。「姑蘇繁華図」には多くの占いの場面が描かれ、看板だけ見えるものも数に入れると、全部で9つある。明代から清代にかけて数多く書かれた通俗小説にもしばしば占いをする場面が登場し、当時の関心をうかがわせる。占いにも様々な種類があるが、ここに描かれているのは人相見である。左手の男は神妙に顔を突き出し、占い師が扇子を片手にその結果を語り聞かせている。向かって右側の人物は単なるひやかしであろうか。占い師の解説を身を乗り出して聞いている。手前の船頭も占い師の説明を気にしているようである。橋を降りてきた老人は、あちこちに見られる典型的な老人である。

占い師の背後の店舗は綿布を扱っている。絹が貴族の愛用品であったとすれば、布は庶民のものであった。江南の綿産業は松江を中心に発達した。蘇州もその技術を学んだものの、生産地としてよりはむしろ一大集積地としての機能の方が重要であった。（佐々木）

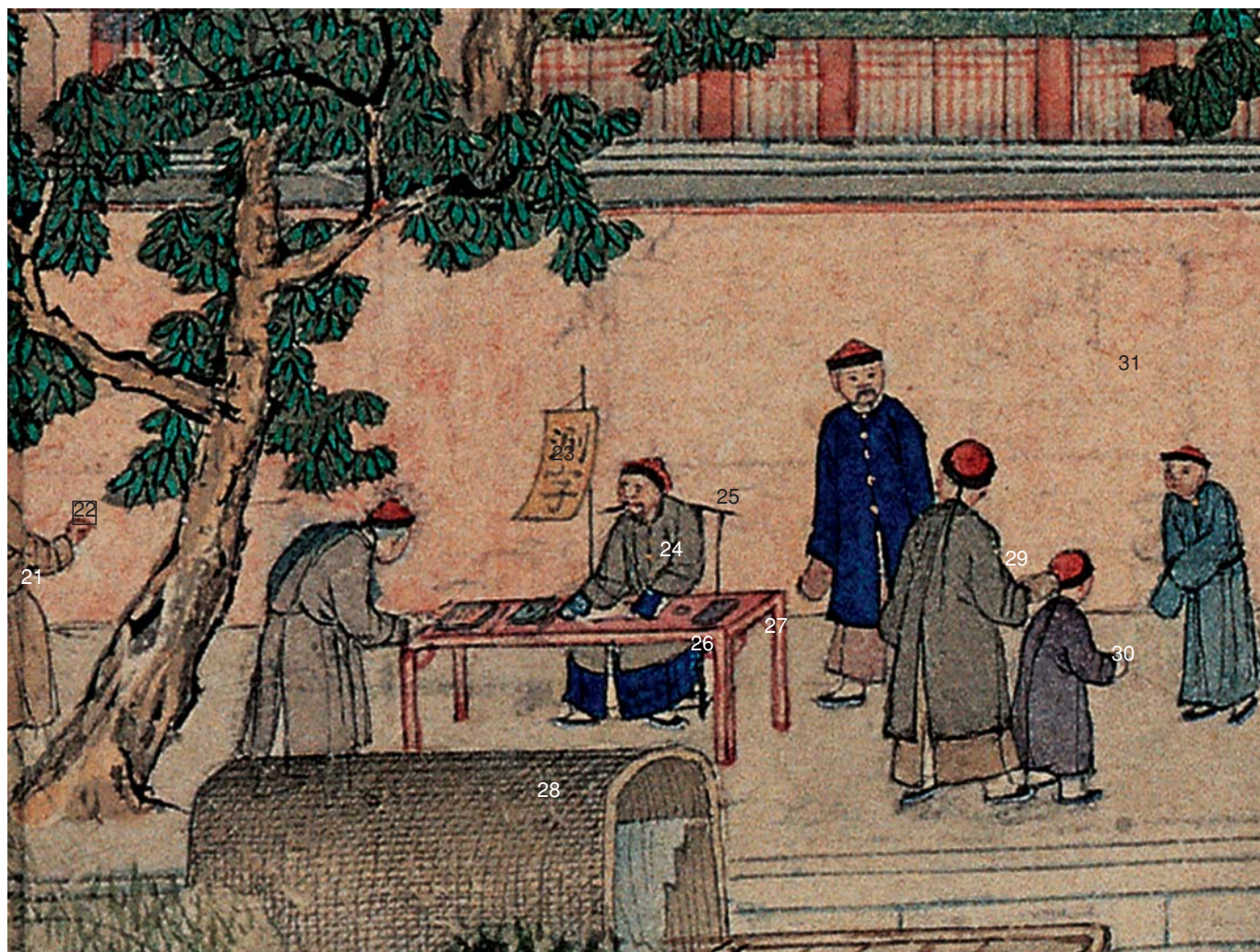


## 30 道観と文字占い



- |             |            |
|-------------|------------|
| 1 瓦屋根       | 17 縁台 (板凳) |
| 2 軒瓦 (滴水)   | 18 話しかける   |
| 3 瓦座 (封檐板)  | 19 煙管      |
| 4 垂木 (椽)    | 20 煙草を吸う   |
| 5 帽子 (暖帽)   | 21 帯 (腰帶)  |
| 6 上着 (外套)   | 22 指差す     |
| 7 釦         | 23 幟「測字」   |
| 8 手甲袖 (馬蹄袖) | 24 占い師     |
| 9 長着 (袍子)   | 25 椅子      |
| 10 布靴 (布鞋)  | 26 長机      |
| 11 上着 (短衣)  | 27 硯       |
| 12 ズボン (褲子) | 28 苫 (船篷)  |
| 13 楣        | 29 辮髪      |
| 14 頭巾 (道冠)  | 30 子供      |
| 15 直綴 (道袍)  | 31 築地堀     |
| 16 勧める      |            |





朱塗りの壁はそれが道観であることを表す。ここには大きな道観（道教の寺院）があり、門から道士が姿をうかがわせている。門の前の腰掛けに座っている男は、その横に立っている男に腰を下ろすよう勧めているようにも見える。座っている男の横には箱のようなものが見えるが、盲目の占い師が音を鳴らす道具に似ている。この男も占い師で客を呼んでいる場面なのかも知れない。その右側の二人の男たちはよもやま話でもしているのであろうか。また画面右手では参拝をすませてきた親子が、すれ違った

知りあいの男にあいさつをしているようである。彼らはいずれも付近の住民であろう。寺廟の門前がちょっとした社交場となっていることをうかがわせる。

壁の前では測字を行う占い師が机を出して営業を行っている。測字は占い的一种で、客が任意の一文字を書くか、もしくは一文字を選び、その漢字を分解したり他の文字と合わせたりして未来を予測する中国独自の占法である。（佐々木）



## 31 山塘橋を渡れば繁華街



蘇州の東北に位置する虎丘への道を山塘街といい、その途中、蘇州城内からほど近い山塘橋とその周辺の風景を描く。

この橋の右奥、北側には船着き場と多くの倉庫があり、手前から山東の塩漬け豚肉、南京のアヒル、寧波の鼈といった食料品と、陶磁器、煉瓦、石灰の倉庫が軒を連ねる。その左手西側には綿布、太湖の水産物を扱う店が並ぶ。その西側はお茶と点心を供する店である。蘇州の西側には、至る所に規模の大きな船着き場があり、物資の流通を行う卸売業や小売業がひしめき合っていたことが分かる。

その南側、運河に面して薬材、及び漢方薬を売る店がある。屋根の上のいくつかの竿は薬材を天日干しにしているところである。今、店員が新たに竿に入れた薬材を干すべく、梯子で屋根の上へ登ろうとしているところである。また同じ店の西側の方ではしゃがみ込んで話し合っている姿が見られる。具合の悪い病人が何の薬を服用すべきか相談しているところであろうか。

橋を渡ったところでは二人の人物が手を握りあっているかのように描かれている。これは、或いは袖の下で値段の交渉を行っているのかもしれない。天





- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| 1 蠟燭屋       | 32 吹流し（幌子）      |
| 2 看板「牛油燭」   | 33 盆（托盤）        |
| 3 薬屋        | 34 靴下（襪子）       |
| 4 シャがむ      | 35 日除け（幔）       |
| 5 薬屋看板「薬酒」  | 36 水産物問屋        |
| 6 看板「内店人参」  | 37 看板「白鯊銀魚老行」   |
| 7 看板「丸散膏丹」  | 38 対聯           |
| 8 看板「地道薬材」  | 39 橋の名前「山塘橋」    |
| 9 天日干しの薬材   | 40 棉布問屋         |
| 10 梯子       | 41 看板「布行」       |
| 11 梯子をのぼる   | 42 小帽           |
| 12 帽子（暖帽）   | 43 棒に提げた荷物      |
| 13 上着（短衣）   | 44 手を握る         |
| 14 帯（腰帶）    | 45 重い荷を担ぐ       |
| 15 ズボン（褲子）  | 46 肉問屋          |
| 16 布靴（布鞋）   | 47 看板「膠州醃猪老行」   |
| 17 茶館       | 48 看板「南河醃肉」     |
| 18 看板「点心」   | 49 看板「南京板鴨」     |
| 19 看板「茶食」   | 50 看板「寧波淡鯊」     |
| 20 苫（船篷）    | 51 陶磁器問屋        |
| 21 船        | 52 看板「選製官窯各款磁器」 |
| 22 錫器店      | 53 梶            |
| 23 看板「錫器老店」 | 54 建材問屋看板「磚瓦石灰」 |
| 24 看板「精巧錫器」 | 55 手提げ籠（籃子）     |
| 25 煙草を吸う    | 56 木箱           |
| 26 話しかける    | 57 鱸屋形の窓        |
| 27 石の欄干     | 58 棹を差す         |
| 28 担げる      | 59 櫓を漕ぐ（揺櫓）     |
| 29 上着（外套）   | 60 笠            |
| 30 手甲袖（馬蹄袖） | 61 下ろされた帆       |
| 31 長着（袍子）   | 62 油屋看板「小磨香油」   |

秤棒が折れそうなほどの荷を担ぐ人、綿布卸売りの前には棒の先に荷をくくりつけ何かに見とれている人、橋の上には煙管を咥え佇む人、何事かを話し合う人、祝い事に用いるのか赤い布を結わえた丸太（竹竿）を担ぐ人など、印象的な人々が点描されている。

橋の下を一艘の舟がくぐろうとしているが、前に竿を操る人、後ろに櫓を漕ぐ人が描かれている。（鈴木）



## 32 高級店の並ぶ半塘橋

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1 竹製品        | 36 橋の名前「半塘橋」   |
| 2 土瓶（水壺）     | 37 アーチ（拱券）     |
| 3 こんろ（炉）     | 38 切石（条石）      |
| 4 甕          | 39 橋脚（橋墩）      |
| 5 提灯         | 40 杖をつく        |
| 6 琵琶槽        | 41 石段（踏歩）      |
| 7 櫓を漕ぐ（揺櫓）   | 42 荷を担いで石段を降りる |
| 8 苗木         | 43 河を見る        |
| 9 書を書く       | 44 買い物をする      |
| 10 硯         | 45 帽子（暖帽）      |
| 11 対聯        | 46 上着（外套）      |
| 12 扉         | 47 釦           |
| 13 漆器専門店     | 48 手甲袖（馬蹄袖）    |
| 14 看板「漆器」    | 49 長着（袍子）      |
| 15 看板「盤盒」    | 50 布製の長靴       |
| 16 莫莖専門店     | 51 布靴（布鞋）      |
| 17 莫莖        | 52 上着（短衣）      |
| 18 莫莖を開いてみる  | 53 帯（腰帶）       |
| 19 看板「定織細席」  | 54 ズボン（褲子）     |
| 20 盆栽屋       | 55 両替店（錢莊）     |
| 21 鉢植え       | 56 看板「錢莊」      |
| 22 看板「四時盆景」  | 57 煙管          |
| 23 看板「各色花卉」  | 58 三合院         |
| 24 艦屋形（船艙）   | 59 中庭（院子）      |
| 25 突上げ窓（支窓）  | 60 門           |
| 26 女性料理人（船娘） | 61 番犬          |
| 27 屋形船（画舫）   | 62 堀（囲牆）       |
| 28 日除け（幔）    | 63 杖をつく老人      |
| 29 宴会        | 64 数珠（念珠）      |
| 30 屋形（頭艙）    | 65 指を差す女性      |
| 31 給仕        | 66 花籠（花籃）      |
| 32 船縁（舷）     | 67 まげ（髻）       |
| 33 火加減を見る    | 68 女性の長着       |
| 34 火箸        | 69 扱き帯（汗巾）     |
| 35 「半塘橋」     | 70 スカート（裙子）    |

山塘街を更に西へ行ったところに、半塘橋はある。橋の北側には花と盆栽を商う店、蘭草の敷物を扱う店、漆器の専門店、竹細工の店などが並ぶ。このあたりの店舗は店構えも大きく、扱っている品物も純然たる日用品ではなく、やや高級なもの、或いは家具のようなものが売られている。特に漆器を売る店の中に並ぶ什器は、朱、黒、藍、茶、緑など、一つ一つ細かく色分けされて描かれている。

半塘橋を南へ渡ると、人も少なく、店舗もほとんど描かれていない。西側の袂には「錢莊」と言われる両替屋がある。両替屋の建物は典型的な「コ」の字形の三合院であり、その門のところには番犬がデーンと陣取っている。「姑蘇繁華図」の山塘街を描いた



部分では、専ら運河の北側が描かれ、南側はほとんど描かれぬのだが、珍しく南側が描かれる。

橋の上では蓋付きの入れ物を手元において、何かを売っている人物が見える。欄干に寄りかかって川のの流れを見ている人もいる。画面右下には籠を下げた女性と他の女性とが会話をしているところが描かれている。籠を下げた女性は何かを指しており、ど





こかへ行こうかと誘っているように見える。

橋の左側の舟はおそらく遊覧用の船であろう。船の中では宴会のさなか、正座する人物はまさに杯を挙げているところである。船室では女性が調理をしているように見える。また、給仕が宴会の様子を窺い、船尾ではこんろでお湯を沸かしている。その宴会をしている舟の西側には苗木を積んだ舟が停泊し

ている。その舟の上方、運河の北側に描かれた店は白い大きな荷に見えるものの、看板も拳がっておらず、何の店なのか皆目見当がつかない。店先には大きな紙を広げ、書を書こうとする人物が描かれ、その横には荷を背負い、手に箆と釣り竿のようなものを持った人物と、足を書き忘れた人物が描かれていて訳が分からない。(鈴木)